

【提案A】 SVCIP

C: 中心概念 「高齢者・主婦・身障者への新雇用」は技術の養成（例：古文書 過去情報の救済）から

- ◆「技術者の不足」： 仕事量が少ない為、各職人の技術が温存される → 増加できる提案
- ◆「仕事量の不足」： 高齢者など、座って作業できる仕事量の不足 → 増加できる提案
- ◆「仕事場・社交場の不足」（研修の場・コミュニティの場の不足） → 増加できる提案（予算の捻出）
- ◆「古文書の消滅」： 「天災・人災」による「消滅・劣化・廃棄」 → 職人技術の養成
- ◆「古文書の情報」： 各地域が一丸となり「補修・デジカメ撮影」 → 地域興しの基盤



S: 状況 詳細

- ◆「技術者の不足」： 仕事量が不足のため、高い賃金構造。
- ◆「仕事量の不足」： 世界の製造や組立て関連の仕事が「安価・安全・安心」なアジア地域等に発注される。
- ◆「仕事の場所」の不足： 高齢者・主婦等の共同の仕事場。
- ◆「社交の場所」の不足： 例）「病院のサロン化」（社交場）と兼ねる。国民の医療費負担は42兆円を超えて行く。
- ◆「働ける環境」の不足： 「働かない・働けない」理由。
- ◆「技術の指導」： 無償の指導では既存プロ企業体が廃業。
- ◆「古文書」： は世界遺産に相当(動画)と海外学者方から高く評価されるが「天災・人災」で「消滅・劣化・廃棄」されている。 状況

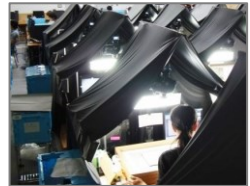


I: 具体案 詳細

- ◆【提案 B】 技術を養成させる 新しい体制
- ◆【提案 C】 国内外から受注 新しい体制
- ◆【提案D・E】 仕事場・社交場の提供(予算の捻出)



- ◆ 高齢者・主婦・身障者で可能な仕事： の提供。
【ヤリがい・楽しい・成長・座れる・非力・地域貢献・休憩の自由】
補修(画)・撮影(画)・撮影(動画)
- ◆「地域興しの基本」： 「古文書の情報」が基礎。「地域特性の再確認」。
- ◆10年後では不可能：現場(動画)・詳細



V: 判断 詳細 (急務)

- ◆「急増する高齢者」： への「手に職」、「技術者の養成」してゆく仕組みとその実行が急務。
- ◆「古文書の消滅」： 「天災・人災」の事前対策としての古文書の救済活動。一度消滅すると記録 情報事体が皆無、取返しが見つからない。（事前にデジカメで撮る）

P: 実行計画 詳細

古文書の救済（補修とデジカメ撮影の場合）

- ◆実証実験： 都内近郊の1県で 例) 約1億円の実証実験。
- ◆2016年： 実証実験、「県の古文書 救済会」を作成。千葉・埼玉・神奈川等 東京近郊で実証実験を行う。
- ◆長期予算： 例) 450億円（5年計画： 90億円×5年）
- ◆全国規模： 1都1道2府43県 各県知事と民が協力
- ◆2017年から 3～5年計画で全国各県での実行が理想。